

令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【前期】

上尾市立鴨川小学校

目 次

上尾市立鴨川小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」	1
-----------------------------	---

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査（令和7年12月実施）	2
【2～6年：国語、算数】	
(2) 全国学力・学習状況調査（令和7年4月実施）	7
【6年：国語、算数、理科】	
(3) 埼玉県学力・学習状況調査（令和7年4、5月実施）	8
【4～6年：国語、算数】	

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組	10
(2) 教育活動全体を通じた取組	16
本校の特色ある取組	
家庭教育との連携	

上尾市立鴨川小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

- がんばる子
- 思いやりのある子
- 元気な子

学校課題研究主題

自ら考え、主体的に取り組む児童生徒の育成～「学力向上」のために各校の実態に即した学習指導を通して～

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査	R7 埼玉県学力・学習状況調査	R7 上尾市立小・中学校学力調査
・国語、算数、理科ともに平均正答率は全国平均をやや上回っている。 ・国語の話すこと、聞くことに関して、発言の理由を問う問題の正答率が低い。目的に応じて、分かったことをまとめる問題の正答率が高い。 ・算数では、データの活用に関する問題で、言葉や数を用いて自分の考えを記述する問題の正答率が低い。	・学力レベルの平均は、国語、算数ともに約2レベル伸びている。 ・国語、算数ともに、学力を伸ばした児童の割合は埼玉県の平均と同等か上回っているが、中間層の学力の伸びが少ない。 ・学習方略では、埼玉県と比較して、努力調整方略の数値が高く、作業方略が同等か若干低い。非認知能力はどの学年の項目でも埼玉県と同等か若干低い傾向にある。	・国語では、読むことについては、ほぼ全ての学年において目標値と同等か上回っているが、言葉の学習については、目標値を下回る学年もあり、主語、述語、修飾語など語の役割についての正答率が低い。 ・算数では、教科全体ではほぼすべての学年で目標値と同等であった。小数や分数の問題の正答率が低い傾向にある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科における、基礎的・基本的な知識・技能の習得	②話の中心を捉えて聞いたり読んだりして、筋道を立てて論理的に考え、根拠をもって表現する力 ③試行錯誤しながら継続的に改善し、最適解を見つける力	④様々な事象に興味関心をもち、自ら考え、共に学び合う力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
・基礎基本の徹底のための反復練習とデジタルドリル等を活用した個別最適な課題への取組 ・指導すべき点と、考えさせる点の明確化による、基礎的・基本的知識及び技能の確実な習得	・ICT機器活用による「教え合い、学び合い」と根拠をもった「発表や伝え合い」の実施 ・複数の資料を活用した「考察」や「まとめ」と「振り返り」に重点を置いた授業展開	・児童にとって身近で必要感があり、興味関心を引き出す「課題の設定」 ・場面に応じた「教え合い・学び合い」による対話的な活動の実施

本校の特色ある取組

- ・埼玉県学力・学力状況調査等、各種調査の効果的な活用、分析
- ・各時間の振り返りをもとにした指導方法の工夫
- ・専科及び教科担任制による専門的かつ系統的な指導
- ・デジタルとアナログのベストミックスによる学習の充実
- ・学習規律の徹底「鴨川小10の約束」「ゲー、ペタ、ピン」
- ・家庭・地域・学校応援団との連携

家庭教育との連携

- ・「家庭学習のすすめ」を活用した家庭学習の習慣化
- ・家庭学習の時間の目安、及び方法の提示
- ・復習問題や反復練習を中心とした家庭学習
- ・まなびポケット、eライブラリ、情報モラルサイトを活用した家庭学習

1 学力調査結果の概要

(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和7年12月実施)

2年(令和8年度3年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○総合は5. 6ポイント、基礎は6. 2ポイント、活用は5ポイント上回っており、全体的に学力の定着が見られる。 ○特に読み書き、漢字は、目標値を大幅に上回っている。 ●文章を書くことは、目標値から2ポイント程度下回っており、課題が見られる。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	≡	
観点	知識・技能	△	要因分析 問いに対して、自分の考えをまとめ、文章で表現する活動が不足している。また、日頃から「行事」等の難しい言葉をかみ砕いて説明していたため、語彙力の定着に至らなかった。
	思考・判断・表現	≡	
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・読み取った情報と明確な自分の考えを、指示に従って書く力の育成。 ・文章の内容を正しく読み取るための、語彙力の育成。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	問題文を自ら読み取り、回答している。	決められた条件に従って書く活動を繰り返し行わせる。 わからない語を、調べる習慣をつける。 初見の問題に触れる機会を設けて、読解力を養う。
②	文章の内容を、正しく把握する	場面の出来事を、想像する。	場面の出来事と、場面絵を整合させる活動を行う。

2年(令和8年度3年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○総合は5. 2ポイント、基礎は5. 5ポイント、活用は4. 4ポイント上回っており、全体的に学力の定着が見られる。 ○無回答率がとても低い。○かけ算の定着ができており、ポイントが高い。 ●午前・午後・正午の理解はできているが、時間の読み解きが理解が低い ●計算の理由の記述での誤答が多い●繰り上がりのある計算で誤答が多い。 ●水のかさの問題で、単位のイメージ(量感)での誤答が多い。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	≡	
観点	知識・技能	△	要因分析 自分の考えの説明はできるが、他者の式の説明をする機会が少ない。 日常の中で、時間を計算する機会が少ない。また、水のかさに触れる機会が少なく、量感がもてていない。
	思考・判断・表現	△	
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	日常の生活体験と算数を結び付けて考えさせる。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	時こくとじかん	バスに乗った時刻と乗っていた時間から、バスを降りた時刻を求めている。	時間の経過を意識させるために数直線や時計の教具を用いて説明し、授業の導入時や課題として宿題に出すなどして習熟を図る。
②	たし算	10をもとにして、(何十) + (何十)の計算をしている。	数カードを使って、数のまとまりのイメージをもたせるようにし、授業の導入時や課題として宿題に出すなどして習熟を図る。

評価について

△	目標値を上回る
≡	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

3年(令和8年度4年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○漢字の読みや登場人物の気持ちの読み取り、資料の情報整理が目標値を大きく上回っており、読書の習慣が身についている。 ●漢字の書きや音訓読みなどは目標値から10ポイント以上下回っており、課題となっている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	≒	
観点	知識・技能	▼	要因分析 タブレット入力をする機会が増え、普段の授業から漢字を書く機会が少なくなった。
	思考・判断・表現	≒	
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・漢字や文章を書く力を身に付けさせるために、授業の時間で書く時間をしっかり確保し、書くポイントを確認しながら練習する。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	漢字を書く	第二学年に配当されている漢字を正しく書いている。	宿題などで漢字の復習を行う。 授業の中で漢字の復習問題に取り組む時間を確保する。 ノートなどに文章を書くときは漢字をなるべく書くようにする。
②	文章を書く	相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。	文章を書くときは、「誰に向けて、何のために、何を伝えるのか」といったポイントを確認してから書かせる。

3年(令和8年度4年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	●どの分野の計算問題も5～10ポイント下回っている。 ●コンパスを活用した問題が30ポイント下回っている。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 基本的な計算が身についていない。 コンパスで図形を描くのはできるが、コンパスで書いた線は中心から同じ長さになることを理解していない。 グラフや文章から必要な情報が読み取れていない。
	思考・判断・表現	▼	
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・基本的な計算能力の向上と資料の読み取りや活用の仕方を身に付ける。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	かけ算・わり算	計算ができる。	授業の導入時に数問復習問題に取り組ませたり、デジタルドリルを活用したりして、基礎的な計算練習を反復して行わせる。
②	表とぼうグラフ	棒グラフを読み取ることができる。	グラフのタイトル、軸の項目、1めもりの大きさを確認させてから、問題を解かせるようにする。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに

4年(令和8年度5年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○全ての項目において目標値を上回っている。 ●物語の内容を読み取る問題の正答率が極端に低い。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析 ・思い込みや、短絡的に判断していることが考えられる。
	思考・判断・表現	△	
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	叙述を詳しく読み取って考える力を育成する。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	物語の内容を読み取る	文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。	・感じたことを短文で発表する機会を増やす。
②	活動をふり返って話し合う	相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話している。	・いろいろな人の感想に触れる機会を増やす。

4年(令和8年度5年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○図形に関しては、2ポイント目標値を上回り、データの活用は4ポイント目標値を上回っている。 ●わり算の文章問題に関しては、文書を読み取って立式をすることができない。
基礎・活用	基礎	▼	
	活用	△	
観点	知識・技能	▼	要因分析 ・文章から問題の場面を想像できなかったり、何を求めるのかを理解できなかったりする。
	思考・判断・表現	≡	
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	文章問題から場面を図に表す力を育成する。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	簡単な場合についての割合	基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶことができる。	問題を読んだらまず図をかく練習をする。
②	簡単な場合についての割合	基準量を求める除法の文章問題にあった立式ができる。	数直線図を使い、文章の数字は何を表す数字なのかを明確にしながら文章題に取り組む。

評価について

△	目標値を上回る
≡	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに

5年(令和8年度6年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○文章の読み取り、漢字の読み書き、聞き取りの問題は、目標値を5ポイント以上上回っている。 ○「文章を書く」の問題は正答率は目標値と同等だが、無回答率が前回よりも低くなった。 ●3分の1の児童の正答率が高いので目標値を上回っている項目が多くなっている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	≒	無回答率が減少したのは、とりあえず書くという気持ちをもてるようになったから。しかし、書き方がわからないので正答率は低いままである。
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・何を聞かれているかを読み取る力を養う。 ・聞かれていることに対してどのように答えるか。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文章を書く	目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしている。	国語だけでなく問題文で何を聞かれているか問う発問を多くする。
②	学級新聞の記事を書く	目的に応じて文章をかんたんにまとめて書いている。	国語だけでなく聞かれたことに対して何を答えればよいのかを確認しながら学習を進める。

5年(令和8年度6年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○全体的に目標値と同等か上回っている項目が多い。 ●分数や小数を活用して解く問題が目標値を下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	≒	要因分析 目標値以上の項目は多いが評定3が50%で評定1が30%と学力差が大きい。要因としては、分数や小数、かけ算などの計算ができない児童が多いと考えられる。
	思考・判断・表現	≒	
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・かけ算やわり算などの基礎・基本の定着。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	分数と小数	整数÷整数の商を分数で表すことができる。	小数や分数の問題を定期的に授業の導入時や課題として宿題に出すなどして、計算力を高める。
②	単位量あたりの大きさ、比例	人口密度と面積から、ある町の人口を求めることができる。	数直線図を使い、文章の数字は何を表す数字なのかを明確にしながら文章題に取り組む。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに

6年(令和8年度中学1年生)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○基礎・活用が4ポイント上回っている。 ○漢字の書き取り、読み取りがよくできている。 ●説明文の内容を読み取る問題、文章を書く問題の正答率が低い。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析 ・文章を読み取る力が弱い。 ・文章全体の構成を捉える力が弱く(読みも書きも)、時間がかかるため、最後の文章を書く問題にたどり着かない。
	思考・判断・表現	≒	
	主体的に学習に取り組む態度		
国語科の重点目標	・短い説明文に触れる機会を定期的に設け、文章構成を捉える練習をたくさんする。 ・読書の習慣化		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	説明文の内容を読み取る	文章全体の構成を捉えている	・短い説明文に定期的に触れ、構成を捉える練習を繰り返す行う。
②	文章を書く	文章全体の構成や展開を考えている	・論の展開(はじめ・中・おわりに具体的に何を書けばよいのか)を意識して文章を書く練習を繰り返す行う。

6年(令和8年度中学1年生)【算数】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○基礎が0.6ポイント、活用が6ポイント上回っている。 ○「図形」の分野が特に上回っている。(対称な形、面積と体積) ●比の値が下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	△	
観点	知識・技能	≒	要因分析 ・分数の割り算ができない。約分を2回する問題ができない ・比への理解が低い。
	思考・判断・表現	△	
	主体的に学習に取り組む態度		
算数科の重点目標	・分数のかけ算、割り算の計算力を向上させる ・比への理解を高める		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	分数のかけ算、割り算	真分数÷仮分数、真分÷帯分数、真分数÷真分数÷仮分数ができる	授業の導入時に数問復習問題に取り組みせたり、デジタルドリルを活用したりして、基礎的な計算練習を反復して行わせる。
②	比	等しい比についての理解、比の値、比を使って全体の量から一方の量を求める	授業の導入時に最小公倍数や最大公約数を数問復習問題として取り組みせたり、デジタルドリルを活用したりして、反復して練習を行わせる。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

(2) 全国学力・学習状況調査(令和7年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

- ・記述式問題の正答率が全国の正答率を大きく上回っていることから、一定の条件や指定された内容に合わせて文章を書ける児童が一定数いることが分かる。一方で、無回答率も他の問題に比べて高く、書く力について個人差が大きいことも考えられる。
- ・話すこと・聞くことに関する問題の正答率が低い。発言の目的や意図を捉えることについて課題がある。

課題の要因分析

- ・書く活動には意識的に取り組んでいるが、低位層の児童へのフォローが足りないと考えられる。教師が定型文を示して、書くことへのハードルを下げたり、友達と作品を見合うことでよりよい表現について学んだりする学習場面の設定が求められる。
- ・原稿を基にスピーチをするだけでなく、相手意識をもって発表したりプレゼンしたりする機会が少ないことが考えられる。発表する人だけではなく、聞く人もメモをとったり、資料について質問したりして、話し手の話を集中して聞き、内容を理解しようと努める必要がある。

算数

考察(問題と結果の分析)

- ・記述式問題の正答率が全国の正答率を上回っており、無解答率も低いことから、既習事項を用いて説明することについて抵抗感が低い児童が多いと考えられる。
- ・領域別にみると、データ活用の問題の正答率が、全国平均を下回っている。資料から必要な情報を取り出すことはできるが、条件に合わせて情報を活用することに課題が見られる。

課題の要因分析

- ・算数的な処理について言葉や式、数字で説明することに抵抗感が低い児童が多いのは、これまでの活動の積み重ねの結果であるといえる。今後も、様々な教科で既習事項を用いて問題解決する場면을意図的に設け、様々なパターンで説明する経験を積ませたい。
- ・複数の資料から必要な情報を整理、分析する経験が少ないことが考えられる。算数に限らず、理科や社会でも、複数の資料から自分の意見に合う情報を選択したり、複数の資料から読み取れることを自分の言葉で整理したりする力を育成することが求められる。

理科

考察(問題と結果の分析)

- ・全体的な正答率では、全国及び県の平均正答率をやや上回っている。
- ・領域別に見ると、「生命」を柱とする領域の問題の正答率が、全国平均を下回っている。顕微鏡の操作といった、基本的な知識及び技能に関わる設問で課題が見られた。

課題の要因分析

- ・観察・実験における、目的に合わせた適切な器具の選択や、正しい扱いについての理解が不足している。観察・実験の過程や結果を正確に記録し、授業の最後に「振り返り」の時間を設けるなどして、学習内容の定着を図ることが必要である。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和7年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

国語

学年	学力レベル					学習方略					非認知能力	
4 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
	校内	5-A			R6数値	3.9	3.8	3.6	4.2	4.1	3.9	4.2
	県	5-B			伸び +or-							
	1 考察 ・全体としては、ほとんどの項目の数値が県平均と変わらなかったが、言語理解や文法の問題の正答率は低い傾向にある。 ・努力調整方略と自制心は県平均よりも0.2ポイント高い。 ・全体から比べると、作業方略が低く、質問調査の結果をみると、学習する際に、教科書以外の本や辞書を活用する習慣が十分に身に付いていないと考えられる。 2 成果と今後の取組 ・作業方略の数値が低いことから、国語に限らず様々な教科で、分からない言葉が出てきたときは、いつでも辞書を使って、言葉を調べて活用する機会を増やしていく。 ・主語、述語、指示語など文を構成する要素に関する問題や被修飾語を選択する問題の正答率が低かった。学習の中で、自分で書いた文章を読み返す時間を確保し、正しい言葉づかいや文章表現について見直すことができるようにさせる。											
学年	学力レベル					学習方略					非認知能力	
5 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会的性
	校内	6-A	3	5-A	R6数値	3.6	3.5	3.3	3.9	3.8	3.4	3.9
	県	6-B	3	5-B	伸び +or-	-0.2	-0.4	-0.3	-0.2	-0.1	-0.4	0.1
	1 考察 ・学力レベルの伸びは昨年度から3段階向上している。 ・情報の扱い方、我が国の言語文化は県平均よりも10ポイント高い。 ・学習方略、非認知能力については、向社会的性が0.1ポイント向上したが、それ以外は昨年度よりも低い数値となった。特に、プランニング方略と自己効力感が0.4ポイント減少している。全体としては、県や市と比較して平均正答率はほぼ同等である。 ・学習方略では作業方略の数値が他より0.1～0.6ポイント低い。 2 成果と今後の取組 ・昨年度、言語に関する問題や文章をまとめたり整理したりする問題の正答率が低い傾向にあり、自分で書いた文章を読み返す時間を確保したり、正しい言葉づかいや文章表現について見直すことができるようにしたりするために、週末に作文の課題を出すという手立てを講じた。その結果、辞典の使い方の理解に成果が見られた。しかし、文の構成や段落相互の関係の理解に課題が残った。 ・上記の結果から、今後言葉の意味を正しく理解させるとともに、日常生活で必要な言葉を増やす(シーンとする→静かな場を作るなど)の取組の継続が必要である。											
学年	学力レベル					学習方略					非認知能力	
6 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
	校内	7A	2	7C	R6数値	3.6	3.5	3.4	4.0	4.0	3.5	3.9
	県	7C	2	6B	伸び +or-	0.1	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0
	1 考察 ・学力レベルの伸びは昨年度から2段階向上している。・学習方略と非認知能力は、県とほとんど変わらないが微増している。 ・「勉強していてわからないところがあったら、先生に聞く」の質問事項の回答で、「よく当てはまる」が、県の平均を約10ポイント上回っている。 ・自己効力感(よい成績が取れる、難しい問題も解ける、自分は授業で頑張っている、自分にはよいところがある)に関わる質問項目が、県の平均よりも低い。 2 成果と今後の取組 ・昨年度、漢字や言葉の扱い方についての問題で正答率が低い傾向にあり、分からない言葉などは辞書を用いて調べる習慣をつけるために、「読む」単元で、意味調べの時間をとるという手立てを講じた。その結果、漢字や言葉についての問題は、ほぼ全ての問題で、埼玉県の高い正答率より高かった。 ・上記の結果から、今後も国語の教科書の文章だけでなく、様々な文章に触れることで、語彙力を増やす取組を継続していく。											

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和7年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

算数

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
4 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
	校内	5-C			R6数値	3.9	3.8	3.6	4.2	4.1	3.9	4.2
	県	4-A			伸び +or-							
	1 考察 ・認知的方略と努力的方略が高いので、学習への意欲の高さが伺える。 ・作業方略とプランニングが低いので、意欲に反して、学習への取り組み方が分からない児童が多いと考えられる。多くの児童が学習内容を理解できているが、低位の児童は大きな差が見られる。											
2 成果と今後の取組 ・どの領域でも県と市の正答率を上回ることができている。学習内容を習得できている児童が多いが、問題の文章や図等の条件について理解できず、正答できないことが見受けられる。今後の取組として、知識を活用する課題に取り組むようにする。文章や図等から得られる情報を活用できる力を身に付けさせる。												
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
5 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
	校内	5-B	0	5-B	R6数値	3.6	3.5	3.3	3.9	3.8	3.4	3.9
	県	5-B	2	4-A	伸び +or-	-0.2	-0.4	-0.3	-0.2	-0.1	-0.4	0.1
	1 考察 ・学力レベルの伸びは昨年度から変わっていない。 ・数量の関係を記号を用いた式で表す問題では県の正答率より4.1ポイント低い。 ・学習方略、非認知能力については、向社会性が0.1ポイント向上したが、それ以外は昨年度よりも低い数値となった。特に、プランニング方略と自己効力感が0.4ポイント減少している。全体としては、県や市と比較して平均正答率はほぼ同等である。 ・学習方略では作業方略の数値が他より0.1～0.6ポイント低い。											
2 成果と今後の取組 ・昨年度、学んだ知識を活用するような応用問題に課題があったため、基礎・基本の定着と、応用的な知識の活用のために、授業の始めにかけ算やわり算の筆算を1問解いたり、早く課題が終わった児童は、ミニ先生として、自分の言葉で相手に分かりやすく説明させたりする手立てを講じた。しかし、学力レベルに大きな変化は見られなかった。 ・上記の結果から、今後も繰り返し丁寧に扱い、繰り返し挑戦する機会を増やすことで、成功体験を積み上げさせる。また、友達同士の意見や考えを交流する時間を設け、様々な表現に触れさせることで、数字、式、言葉などを用いて説明する力を伸ばしていく取組の継続が必要である。												
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
6 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	自制心
	校内	6-A	2	6-C	R6数値	3.6	3.5	3.4	4.0	4.0	3.5	3.9
	県	6-C	2	5-B	伸び +or-	0.1	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0
	1 考察 ・学力レベルの伸びは昨年度から2段階向上している。 ・図形領域の正答率が県よりも約10ポイント高い。 ・問題では「数量関係、小数の除法、条件から適するグラフを選ぶ、平均から全体の量を求める」という問題の正答率が低い。											
2 成果と今後の取組 ・昨年度、思考・判断・表現を問う問題の平均正答率が低かったため、個別最適な学びのために、デジタルドリルを活用して、習熟度に応じた課題を提示するという手立てを講じた。その結果、思考・判断・表現の問題は、埼玉県の平均正答率より高かった。 ・上記の結果から、今後もデジタルドリルを活用し、課題提示を工夫する取組を継続していく。												

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科における、基礎的・基本的な知識・技能の習得	②文章の読解力、筋道を立てて論理的に考え、根拠をもって他者へ伝える力 ③試行錯誤しながら継続的に改善し、最適解を見つける力	④様々な事象に興味関心を持ち、自ら考え、共に学び合う力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	②	②書くことへの抵抗感を減らしていくために、書きやすい題材を用意するなどして日記など、日常的に書く機会を設けるようにする。 ②自分の考えをメモに書き、そこから文章を構成する活動などを通して、文と文の続き方に注意しながら「はじめ」「中」「おわり」を意識して書く力を身に付けさせる。 《手立て》 ・ICT機器を活用し、文や文章の組み立てを繰り返し学習させる。 ・「まず」「次に」「最後に」など順序を表す言葉に着目して文を読む活動を通して、文章の構成を身に付けさせる。 ・主語、述語を用いて繰り返し文章を書く練習をさせる。 ・「どうしてか」というと～だからです。」などの定型文や例文を提示することで、進んで文章を書くことができるようにさせる。	
算数	②	②具体物や半具体物を用いて視覚的、体験的に学習し、答えの根拠や自分の考えについて表現させるとともに、いろいろな表現を認めることで、多角的に問題を捉えようとする態度を養う。 《手立て》 ・学習の基礎をつくる学年なので、具体物や半具体物を用いた体験的な活動を継続的に取り入れて、数量感覚を養うようにする。 ・式の根拠や考え方を半具体物や図、言葉等で表現し、発表し合う活動を意図的に取り入れる。その際、初めに、次に、最後に、など思考の順番を意識させ、筋道立てて話したり、思考の過程を表したりする良さに気付かせるようにさせる。	
生活	①④	①動植物を育てたり、観察したりする活動を通し、動植物が成長していることや生命があることに気付かせる。 ④地域の公共施設や公共物に対するルールやマナーを身に付けさせる。	
音楽	①④	①音楽を形づくっている要素について知り、要素によって工夫しながら歌ったり、演奏したりできるようにさせる。 ④友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図らせ	

		る。 ④旋律作りやリズム作りではＩＣＴ機器を活用し、プログラミング的思考を取り入れながら、主体的に活動できるようにさせる。	
図画工作	①③	①感じたことを色や形などに工夫して表せるように導入を工夫する。 ③手や体全体の感覚等を働かせて、安全に用具を使いながら、繰り返し試みる活動を取り入れる。	
体育	①④	①様々な遊具や用具で多くの運動を体験することで動きを身に付け、きまりを守ることで安全に運動させる。 ④様々な運動遊びを経験させる中で、自分の課題や友達のよい動きを見付け、伝え合えるようにさせる。	
英語活動	①④	①身近で簡単な挨拶や語句を聞き取ったり、話したりできるように歌やチャンツ、ゲームなどに取り組ませる。 ④多くのゲームや歌を通して、一人一人が楽しみながら活動できるようにさせる。	
特別の教科 道徳	②④	②感じたことや考えたことを発表したり、書いたりする活動を計画的に取り入れる。 ④役割演技をさせたり、挿絵を活用したりすることで、主人公に共感させながら道徳的価値の理解を深め、繰り返し指導し実践につなげていくことができるようにさせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科における、基礎的・基本的な知識・技能の習得	②文章の読解力、筋道を立てて論理的に考え、根拠をもって他者へ伝える力 ③試行錯誤しながら継続的に改善し、最適解を見つける力	④様々な事象に興味関心を持ち、自ら考え、共に学び合う力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	②	②書かれている文章から読み取った事実と感想や自分の考えを区別して書く活動を取り入れる。また、辞書を引く習慣を身に付け、語彙力を増やせるようにする。 ②主語や述語、接続詞など文の構成に注意して、読み取った内容や自分の考え、思いを言葉に表現する活動を取り入れ、文章の理解力や表現力の育成を図る。 《手立て》 ・読んだ文章を要約する際、事実（例：「登場人物はAでした」）と感想（例：「私はAがかわいそうだと思いました」）を異なる色を引かせたり、専用のシートに書き分けさせたりする活動を行わせる。 ・文章の中で述語（例：「～を読んだ」）を提示し、子どもたちに適切な主語（例：「私が」）を読み取らせ、発表させる活動を行わせる。	
社会	②③	②課題解決に必要な資料を選び、調べてまとめ、人々の生活との関連を踏まえて、自分たちの都道府県の様子について理解し、表現する力を育成する。 ③地図やグラフ等の資料を活用し、必要な情報について調べ、まとめる活動を通して、思考力・判断力を向上させる。	
算数	①②	①具体物やデジタル教材を用いて体験的な学習を行うことで、図形の性質を理解させ、既習の図形を捉え直させる。 ②新たな課題に対して既習事項と比較し、根拠や理由を明確にして自分の考えを表現する活動を取り入れる。 《手立て》 ・身の回りにある様々な箱や牛乳パックを分解させ、展開図を考えさせたり、図形アプリやプログラミング教材（Scratch など）	

		を使って、多角形を回転させたり、平行移動させたりする活動を行わせる。 ・新しい問題に取り組む際、そっくりな既習問題を提示し、どこが同じでどこが違うのかを比較させたり、問題を解く過程を「なぜそう考えたか」「どうやって解いたか」といった言葉で説明する機会を意図的に設けたりする。	
理科	①	①体験的な活動を多く取り入れるとともに、問題解決の過程の中で、「理科の見方・考え方」を働かせ、問題を追究させる。	
音楽	①④	①音楽を形づくっている要素を提示し、あてはまる要素について児童に考えさせる。 ④友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図らせる。	
図画工作	③④	③作り出す喜びを味わえるような導入や、イメージを具体化できる創作中の声かけを十分に行い、学習環境の整備を行う。 ④児童の自由な発想・考えを重視し、今までの経験を生かしながら作り出す喜びを味わえるようにさせる。	
体育	①④	①自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付けることで、解決のための活動に生かせるようにする。 ④友達の考えを認めたり、自分の考えたことを他者に伝える場面を設けたりする。	
外国語活動	④	④様々なアクティビティを取り入れ、既習の英語を繰り返し使う場面を増やす。	
特別の教科 道徳	④	④自我関与や問題解決型の活動を通して、自己と向き合ったり、他者の意見を聞いたりしながら、道徳的価値の深化を図らせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①各教科における、基礎的・基本的な知識・技能の習得	②文章の読解力、筋道を立てて論理的に考え、根拠をもって他者へ伝える力 ③試行錯誤しながら継続的に改善し、最適解を見つける力	④様々な事象に興味関心を持ち、自ら考え、共に学び合う力



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	②	②登場人物の心情をとらえる学習では、根拠となる文章を挙げて考えるようにさせる。 ②目的や意図、理由や根拠を明確にすることを意識させ、話し合う活動や書く活動のとき、自分の考えを伝える力を身に付けさせる。 《手立て》 ・教科書の文章だけでなく、様々な文章に触れることで、語彙力を増やせるようにする。 ・文章から内容を読み取る力を身に付けさせる。(もう一度解き直す、テスト直し) ・「はじめ・中・終わり」の構成を意識させて文章を書かせる。	
社会	①②③	①様々な資料の中から必要な情報を選んだり、複数の情報を組み合わせたりして目的に合うグラフを選び、読み取った情報を答えることができるようにさせる。 ①日常生活の場面に即して、数量が変わっても割合は変わらないことを理解できるようにさせる。 ②既習事項も含め、練習問題に多く触れ、根拠を説明する活動を設定する。 ③文章問題に繰り返し取り組み、課題を解決するための適切な計算の公式を確認したり選択したりできるようにさせる。	
算数	②③④	②問題文を絵や図、数直線などに表し、理解が深められるようにさせる。 ②式の意味を考え、根拠をもって説明できるようにする。 ③予想を伝え合ったり、結果から考えられることを意見交換したりし、自分の考えを明確にさせる。 ④グループ活動などで他者と関わりながら、新しい知見に気が付けるようにさせる。 《手立て》 ・既習の内容や生活経験を基にして、根拠のある予想や仮説を発想させる。 ・問題に対する自分の考えを論理的に書くことができるよう指導する。 ・自分の考えを書いた後、子供同士の教え合い活動を取り入れ、隣同士で説明させる時間を作る。	

理科	②③④	②既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想させるようにする。 ②実験結果による資料をもとにして、結論までを記述できるようにさせる。 ③予想を伝え合ったり、結果から考えられることを意見交換したりし、自分の考えを明確にさせる。 ④グループ活動などで他者と関わりながら、新しい知見に気が付けるようにさせる。	
音楽	①④	①音楽を形づくっている要素を提示し、あてはまる要素について児童に考えさせる。 ④友達と音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図らせる。	
図画工作	③④	③材料に触れたり、友人と交流したり、言葉で考えを整理したりするなど、様々な指導の工夫によって、自分が表現したいことを見つけさせる。 ④繰り返し試したり、友人と積極的に交流したりする場を設定し、自分らしい表現の追究と発見をさせる。	
家庭	①③	①見通しをもって主体的、能動的に学ぶために、ＩＣＴ機器を活用させる。 ③日常生活の実践や体験を授業に生かし、学んだことを生活改善に生かさせる。	
体育	①②	①資料や模範となる児童の動きを参考にして活動させたり、自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組まさせたりする。 ②仲間の考えや取組を認めたり、自己やグループの課題解決のために考えたことを他者に伝える場面を設けたりする。	
外国語科	①④	①児童がデジタル教科書を使いこなし、しっかり音を聞き取り、読んだり、書いたりする力をつけさせる。 ④ペア活動やグループ活動を行い、外国語を伝え合う機会を多く設ける。自分に関わることを表現できる様々な場面を用意し、相手に伝わるように、ジェスチャーを取り入れたりするなどして、楽しく英語を用いることができるようにさせる。	
特別の教科 道徳	①③④	①初めに身に付けさせたい道徳的価値を提示し、児童が思考を整理しやすいようにする。 ③葛藤場面ではハートメーター等を活用し、自分の心の見える化を図る。自分の意見との違いを明確にして質問や意見を言い合えるようにさせる。 ④協働学習や、授業の中での社会化を図り、自己と他者が相互に関わり合って生きていることを理解し、道徳的価値の深化を図らせる。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
家庭・地域・学校応援団との連携	○家庭・学校応援団等との連携 ・校外学習や実習などでの地域・保護者による学習支援 ・学校応援団「読み聞かせボランティア」と地域の方による、児童への「読み聞かせ」「大型紙芝居」の実施 ・学校応援団による下校見守り、校舎清掃活動の実施
基礎学力と基礎・基本的な学力の定着	○習熟度別学習指導の充実 ・算数科、中・高学年におけるクラスを分けての少人数指導やチームティーチングによる個に応じた指導の充実 ○高い専門性を活かした教科担任制（音楽、家庭科、理科）と学年内での教科担任制の実施 ○読書活動のさらなる充実 ・廊下へ「おすすめの本」の展示と定期的な更新、読書メダルの活用による児童の読書に対する興味の喚起
GIGAスクール構想の実現に向けた学習の推進	○「主体的・対話的で深い学び」に視点をおいた授業実践 ・児童が主体となる授業や活動の充実、推進 ・ICT 端末、デジタルドリルを活用した学習 ・地域や企業と連携した、社会参画を重視した学習 ○高い専門性を活かした授業 ・理科、音楽、家庭科での教科担任制の実施 ○学習規律の徹底・教師の共通行動 ・鴨川小10の約束、「ゲー、ペタ、ピン」 ○グローバル化に対応した外国語活動の推進 ・低学年からの英語活動でのALTとのコミュニケーション
家庭教育との連携	
家庭学習の習慣化	○学校全体での家庭学習のあり方の統一と共通理解 ・まなびポケットやeライブラリの積極的な活用 ・「家庭学習のすすめ方」による家庭学習推進の取組 ・家庭学習の時間や方法の明確化による具体的な取り組み方の提示 ・音読と漢字、計算を中心とした宿題、復習の実施と確認
オンラインを活用した学習	○オンライン学習の推進 ・私用等での欠席時におけるオンラインによる授業参加 ・eライブラリやe-board、情報モラルサイトを活用した家庭学習